

アルカディア探訪

静岡県が推進する「ふじのくに美しく品格のある邑づくり」は、見逃しがちな小さなアルカディアを探し出す新たな取り組みだ。風土に育まれた個性を生かしながら、多彩な取り組みによって農山漁村の可能性を切り拓く姿勢に、これからの国づくりに向けたヒントが隠されている。

さまざまな人々が集う

棚田の再興

伊豆半島の南西部に位置する賀茂郡松崎町の石部地区。エメラルドグリーンに染まる海岸から山間部へ向かうと、標高150〜230メートルのエリアに4・2ヘクタールもの棚田が見えてくる。急峻な傾斜地に人力で積み重ねた石垣が幾重にも重なり、波模様を描きながら田畑を織り成す光景は空中庭園を思わせる。振り返れば眼下に紺べきの駿河湾、遠くに富士山や南アルプスを臨む絶景。まさしく理想郷だ。

石部地区は古くから半農半漁の集落として栄え、棚田では良質な米を栽培していた。しかし、昭和30年代以降、減反政策の実施による棚田の休耕、観光産業の発展を背景とした若者の農業離れの進行などにより棚田が荒廃。危機感を募らせた同地区の有志が「何もしなければ地

域は沈んでいく」と立ち上がり、平成11年に「石部地区棚田保全推進委員会」を発足、棚田を核とした地域づくりが始まる。同12年には地区住民、しずおか棚田くらぶなどのボランティアが団結して棚田の復田に着手。県のふるさと水と土ふれあい事業による耕作道や交流棟の整備も進み、同14年にはよみがえった棚田を活用し、オーナー制度を導入して県内や首都圏の人たちとの交流の場を創出した。近年では、棚田で育てた古代米を使った焼酎などの加工品を販売するなど、6次産業化にも積極的だ。

誰もが笑顔になれる古き良き棚田の再興を目指して、地区住民、棚田オーナー、ボランティア、企業、学校などのさまざまな人々が集い、老若男女の歓声が響き渡る石部の棚田。その生き生きとした活動の姿からは、日本の農山村の可能性がうかがえる。

老若男女の
歓声が絶えない
美しい棚田

賀茂郡松崎町 石部地区



静岡県棚田等十選に選ばれた石部の棚田。「先人が築いた石垣は次代にも残すべき」と語る棚田保全推進委員会の会長・高橋周蔵さん。



アクセス
 ● 伊豆急下田駅から車で約50分
 ● 松崎バスターミナルからバスで約20分